

【分かち合う世界へ】49、SDGs 達成へ自覚を

アジア自立支援機構代表理事・小沼廣幸

2021/12/05 16:42

ここのところよくSDGs（持続可能な開発目標）という言葉聞くようになった。テレビの番組やワイドショーなどでも、SDGsに関する報道や特集を時々取り上げるようになり、SDGsの知名度がだんだんと世間に浸透してきたように思う。

先日、テレビのある番組で「国連が2030年までに世界が達成すべき、17の目標を掲げました」と、大きな声でSDGsの紹介をしていた。国連に在勤中、SDGsの作成の過程に陰ながら関わっていた身としては、大変ありがたい。

このテレビ番組では17の開発目標に対して分かりやすく丁寧に説明していたが、同時に少し違和感を抱いた。17の開発目標を国連が掲げた、というよりは、国連は裏方の調整役で、本当は世界の国々が合意して掲げた世界の共通目標なのだ。

つまり、正確に言うと、SDGsは国連が掲げたのではなく、世界の国々の代表が、その国の国民を代表して長い時間をかけて議論し、最終的に共通目標を17に絞り、合意してSDGsとして掲げたものである。

言い方を変えると、SDGsの作成と合意に、われわれ一人一人が、われわれの代表を通じて関わっており、その目標の達成には、地球市民として一人一人が責任を負っているといって過言ではないだろう。SDGsはみんなが創った、みんなのための、みんなのものだ。

重要なのは個々の自覚と所有者意識だ。誰かがやっているから、と他人事と片付けるのではなく、17の目標の達成のために自分に何ができるか、何をす

べきか、考え、行動に移すのが肝心だと思う。思えば、身近にできることはたくさんある。節電を実践し、水道の水を無駄にしない。食べ物を大切にし、食料の不必要な消費や廃棄を減らすなど、気が付けばたくさんある。

最近の国連のレポートによると、新型コロナウイルスの世界的な蔓延（まんえん）の影響で、世界の栄養不足人口はSDGsのゴール2が目標としたその撲滅に近づくどころか、20年の1年間で6億9千万人から16%増の8億2千万人以上に達したと推計した。そのうち、重大な飢餓状態に瀕（ひん）している人は同期間に50%激増して2億7千万を超えたという。

同様なことがSDGsゴール1の目標である貧困撲滅にもいえる。世界銀行によると21年の初めまでに、新型コロナウイルスの影響で約1億2千万人の新たな貧困人口が発生したと推定する。これらの数字に、21年12月までの直近の1年分を加えたら、恐ろしい数字になるだろう。

新型の変異株「オミクロン株」のニュースが世界中を飛び回っている。この新型からは突然変異の数が30近く見つかり、感染力が強く、既存のワクチンや薬は効きにくくなる可能性があるという。ついに来るものが来たか、と身震いする。

アフリカのワクチン接種率の低さや保健医療体制の不備は、アフリカ全体、さらには全世界で壊滅的な被害を及ぼす恐れがある。オミクロン株に対応する緊急なワクチンや薬の開発を切望する。そして、忘れてならないのはアフリカの人々に対するワクチンや医療支援だ。こうした強力な感染力を持つ伝染病に対して、自分たちだけが助かればいいという、自己中心的な考えは、そのしっぺ返しが自分たちに降りかかってくる。

<こぬま・ひろゆき> 1953年、東京都生まれ。明治大卒。筑波大大学院博士課程前期修了。博士（農学）。元国連食糧農業機関（FAO）事務局長補兼アジア太平洋局長。元明治大学特任教授。2017年にタイ王冠勲章を受章。18年、一般社団法人（非営利）アジア自立支援機構を設立。両親、妻は本県出身。茨城県、バンコク在住。